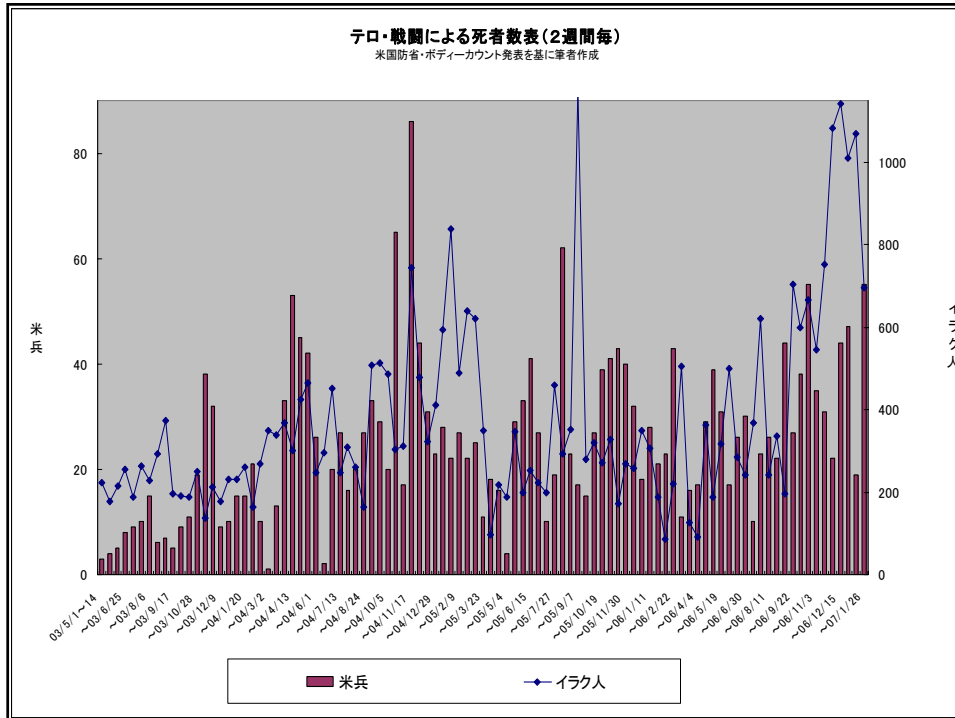


# イラクの現状と将来

平成19年2月16日

大野元裕



## イラクの治安状況

- 継続的に悪化
  - 米軍増派作戦の失敗
- 11月の応酬の持つ意味
  - サドル・シティによる複数の爆破事件(11/23;215名死亡)
  - スンニー派モスク襲撃(11/24;30名死亡)
- サドル勢力の自制
  - 政府の断固たる立場？
  - クルド部隊の移動
  - 政界再編の動き
  - サマーワの衝突事件
  - 組織的テロ勢力の表面化、サッダームの残党の動き

## ブッシュ政権の新イラク政策

増派	バグダードに5個戦闘大隊を1月15日より30日ごとに5月15日まで順次増派。
	アンバール県に海兵隊最大4000名を二回に分けて増派
	増派のために56億ドルの追加予算を要求
	イラク治安部隊に対し、アドバイザーを派遣 イラク軍の訓練と整備
経済支援	PRTを従来の倍に拡大
	部隊司令官用の緊急復興対応予算拡大
	復興担当責任者の任命
イラクの義務	復興資金に100億ドルを割り当て
	バグダードに宗派・民族構成の三個大隊を派遣
	宗派・民族を問わずあらゆる過激派を掃討する
	すべての地域、宗派・民族に平等なサービスを与えるために内閣を改造する
域内諸国	バグダードに治安部隊を展開させ、司令官を任命
	イラクが義務を履行しなければ、米国の支援は得られなくなる
目標	シリアならびにイランに対し、関与を止めるよう圧力
	11月までに治安権限委譲
	国民全員に石油の富を分配するような法律の制定
	バアス党排斥政策見直し
	年内の地方選挙実施
憲法の見直し	

## 新イラク政策に対する評価(1)

- 謝罪と新味の乏しさ: ISG報告との比較
  - 治安優先の表明
  - 謝罪: 変化の予感
  - 撤退: 期限なし
  - イラク政府の責任: 減少
  - 対イラン・シリア: 180度転換
- 有権者向けの撤退示唆と継続的コミットメント
  - 撤退を可能にする措置
  - 最後通牒? 継続的コミットメント?

## 新イラク政策に対する評価(2)

- 増派の行方(兵力集中)
  - 成功例: 2003年夏のティクリート
  - 失敗例: 昨年夏以来の増派
- イラク政権の決意
  - 民兵解体
  - 武力行使
- イラン・シリアへの圧力
  - ISG報告の間違い
  - 関与させない政策の無理 ⇔ 相互不信
  - ライス国務長官の外交

# ISG報告のマイルストーン

## a) 国民和解

2006年末～2007年初頭  
地方選挙法の制定と選挙期日設定  
石油法採択  
バアス党排斥法採択  
民兵法採択  
2007年3月まで  
(必要な場合には)憲法追記採択  
2007年5月まで  
民兵法実施  
恩赦合意  
国民和解努力完結  
2007年6月まで  
地方選挙実施

## b) 治安

2006年末まで  
2006年以上の治安経費計上  
2007年4月  
イラク政府が軍をコントロール  
2007年7月  
イラク政府が地方をコントロール  
2007年末  
(米軍の支援を得て)イラク自身で治安をコントロール

## c) 統治

2006年末まで  
中央銀行は公定歩合を20%に引き上げ、ディナールの価値を10%上げる  
石油製品を市場価格で販売

# 治安情勢の見通し

- サドル勢力の行方  
全面抗争or従来 of 構図  
2月19日のサドル勢力
- 政界再編失敗？  
マーリキーの指導力: 変化? 投げやり?  
チャラビ⇒アラーウィ⇒ダアワ⇒??  
イラク・ファースト・反米  
VS 宗派ファースト・親米
- 新たな脅威？  
宗派・民族対立を煽る動き  
カルト教団? 出現の背景

## イラク政権は変わる？

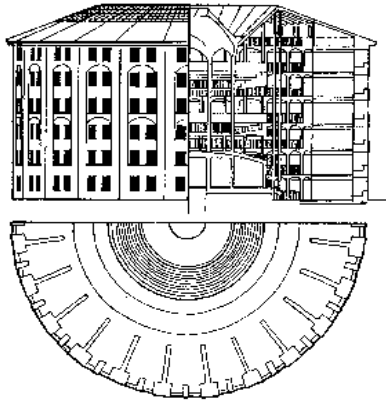
- スンニー派の疎外感解消の難しさ
- 国外スンニー派の動き
  - サッダーム処刑の影響
  - サウジのスンニー派

2006年末	地方議会選挙法公布	一部で自治選挙が実施されるも、具体的進展なし
	石油の富の均等な分配案	石油法案は固まるも、イラク規模の具体的分配案に合意なし
	バアス党排斥法案見直し	重要性が強調されたまま放置
	政治的恩赦法公布	一部恩赦の実施はあったが、ルールの確立を含め遅延
	民兵解体	すべての民兵が例外なく解体されるとの発言どまり
2007年1月末	憲法修正案起草	国内外の専門家によるレビューの最中。

## イラクとサッダーム

- 国家の象徴としてのサッダーム
  - イラク人の不在：国家を纏める象徴
  - モザイク状の宗教・人種構成
  - 右肩上がりの経済
- 国家を纏める手法
  - 独裁政治：パノプティコン
  - 歴史の再編纂
  - 制裁・部族・宗教
    - ⇒ 98%の支持

## パノプティコン (18世紀の英国の監獄)



## イラク戦争がもたらしたもの

- 国民国家の崩壊
- 経済の破綻
- 中央集権の崩壊
- 宗教の台頭
- 部族・民族・宗派



諸悪の根源サッダームの排除  
イラク人民不在

## イラクの戦後の状況

- 米国と旧反体制派  
反サッダーム  
地方分権、軍・治安機関解体、バアス党排斥
- テロ勢力  
宗教化を利用  
米国のアンチ・テーゼ
- 宗派・民族意識の覚醒  
クルド、マルジャイーヤ  
社会問題化

## イラク正常化に向けて

- ラムズフェルド発言  
政治・復興・治安が同時並行的に  
進むことが重要
- サドル・シティの前例(2004)  
治安、復興、街づくりへの住民参加
- 国づくりの重要性  
イラク混乱の背景  
正常化＝国づくり

# 日本の貢献の可能性

- 人づくり  
PRTは無理
- クルド自治区の活用

	10月前半		10月後半		11月前半		11月後半		12月前半		12月後半		1月前半		1/15~22	
	件数	死者数	件数	死者数	件数	死者数	件数	死者数	件数	死者数	件数	死者数	件数	死者数	件数	死者数
クルド三県	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
ニノワ、キルクーク	14	33	10	42	21	60	15	29	24	48	19	31	27	80	12	33
アンバル、ディヤラ、サラフ・ツェディーン	50	250	39	149	31	147	31	188	19	80	27	99	17	58	6	20
バグダード	70	620	82	484	116	837	49	840	50	715	55	760	40	599	41	398
バスラ	2	3	4	10	4	4	2	7	1	3	0	0	2	3	1	2
その他	27	92	34	126	28	101	22	86	23	57	20	83	17	42	26	38